

	名前	笹井俊一さん	他のゼミ生の感想や関連するやりとり
	生まれ	1938年3月31日	
	成人するまでの主な居住地	長野県松本市島内	笹井さんは、戦中、戦後を長野県松本市で過ごす。実家は自営業（造り酒屋）。土地柄が戦中の極度な物不足の記憶は少ないが、物を大切に生活していた様子が伺える。
	終戦後の状況		
1	終戦はどのように迎えましたか？	長野県松本市生まれ、終戦時は小学校1年生だった。玉音放送は、家族、近所の人とともに聞いたのではないかと想像するが記憶はない。ラジオを持っている人はほとんどいなかったので想像だけ小学校かなにかで集まって放送を流したのではなかったかと思う。	
2	戦後、“衣”、“食”、“住”はどんな手段で都合できたのでしょうか？	<p>戦争時代にやめる酒屋もあったが地域の実情が許したのか（笹井酒造では）続けていて流通に乗った酒を製造していた。白米が入ってこない酒造りができないはずなので物資の流通があったのではないかと思う。</p> <p>（住んでいたところは）（松本市の）島内という地区で、米穀地帯、見渡す限り田んぼだった。現在は住宅地が多くなった。酒造り用のコメは厳密に管理されていたようで一升一合たりとも食用に回すことはなかった。家には祖父、両親、兄弟のほか、酒造りの職人が7-8人泊りで働いていた。「ねえや」と呼ばれる傭いをする人（女性）も居た。お酒のモロミを絞る綿の袋の破れたところの繻いや子供の衣類の針仕事を夜なべでするのが母の仕事だった。めいめいができることを手伝う。45年頃当時はそれが当たり前だったが今はまったく変わってしまった。</p> <p>—“食”に関しては？ こうりゃん、あわ、いわゆる穀類、じゃがいも、さつまいもなどの代用食や、配給でもらったお米に大麦を足して食べる「お割り」が日常で、白米だけで食べることはなかった。酒屋をしていたが様々な事情がありつましい生活をしていた。</p> <p>—“衣”に関しては？ 今のように四季ごと若しくはもっとシーズンを増やすのではなく夏物と冬物と年2シーズンで着まわしていた。子供が多かったので冬の終わりに来年用の冬物を買うなど、やりくりしていた。</p> <p>—“住”は？ 住居100年を超えた瓦屋根の家。家族の構成が変わると改築した昔ながらの自然の冷暖房完備の住宅。</p>	 <p>（今井）戦火にはあっていませんか？ （笹井）時折空襲があったり防空壕に逃げ込んだことはあった。</p> <p>（加藤）（食の話に戻るが）食券の記憶は？ （笹井）記憶がない、米穀通帳は見たことがあるような気がする。 （加藤）職人さんなどの食料事情は？どのようにサポートしていたのか？ （笹井）通いの3人は屋食のみ、住み込みの職人7人は三食。特別の配給があったのか記憶にはない。田舎ということなのか、間の米とか物資には縁がなく食べ物の都合は多少はついてたのかもかもしれない。 （加藤）いわゆる疎開先ではなかったのか？ （笹井）（疎開してきた子供は）あまり居なかった。佐久平、軽井沢など関東に近い地域が疎開の対象になっていたと思う。松本は東京から汽車で8時間くらい、遠かったのでは。</p>
	生活と環境		
1	自宅での生活用水は戦後どのように変わりましたか？	ずっと地下水だけです。敷地内の湧き水では芹を栽培したり、カジカもいましたがいまは芹だけです。	
2	ご自宅のトイレはどのように変わっていききましたか？	中学卒業ぐらいまでは汲み取り式で、自分でも天秤棒で肥桶（コエオケ）を畑に運びました。その後浄化槽を設置、いまは公共下水道	
3	ご自宅の物干し竿はずっと竹ですか？	桶屋さんが樽、桶の補修に竹竿を籜（タガ）にしていた関係で、1970年ごろまで竹竿でした。	
4	ゴミ箱やゴミにまつわる記憶はありませんか？	生ごみは犬、猫、鶏、兎の餌に。一升瓶10本入りの破損木箱が風呂の燃料です。	
5	ゴミの分別について、意識したのはいつ頃？どのようなきっかけで？	1990年代後半からペットボトルの飲み物が増えてきたころから。83～84年ごろの「六甲のおいしい水」はまだ2ℓのペットボトルだった。	
6	戦後から高度経済成長期へ	高校卒業後 東京へでて学生暮らし。1960年に大学を卒業。父親は酒屋もどることを希望したが外資系の会社へ就職し、4年ほど九州、広島、岡山、愛媛で電子計算機の営業の仕事をした。自社NCRの会計機、電子計算機を販売し、IBM、レミントンランド、ユニパック、富士通のファコム、日本電気のニアック、東芝のトスバック、高千穂交易のパロースなどが競合会社だった。その後、長野へ戻り結婚、今日に至る。	（笹井さんのいわゆる退職後）酒屋の仕事を40年続けた後、2005年 笹井酒造をやめて小さな会社をつくる。松本の商工会議所などにヒントをもらい障がい者ができる仕事を見つけ立ち上げたのがフランス鴨の飼育。授産施設ではどうしても職員に負担がかかってしまうため、いまは障がい者では無く山間地農業者と飼育している。プラスチックキャップの色分けのような単純作業より鴨の仕事のほうが障がい者には高収入になるはずだっただけに残念。
7	「公害」を意識したのはいつ頃、何がきっかけでしたか？	1960年ころは、小倉で製鉄所の煤煙で洗濯物が汚れると聞いても無関心だった。意識したのは、自分が70年代車に履いていたスパイクタイヤの粉塵問題から。	

8	＜使い捨て＞を意識したものは何でいつごろのことですか？ その時考えた、感じた、という何か記憶はありますか？	父親から屋根、壁、雨樋の修理、セメント打ち、塗装、機械物。ストーブの修理、窓ガラス切り、鋸の目立て、車の（ホイールではなく）タイヤ交換など教えられたので、物を捨てるということはなかった。 日常に購入する食品、野菜類の包装材が過剰ではと思う。	
9	風呂はどのように変わっていききましたか？	家ではお風呂場を湯殿（ゆどの）と呼んでいて1965年頃まで鉄製の五右衛門風呂で、外にある焚口で薪を燃やし湯加減を聞くのは子供の仕事でした。67年頃にガスのバーナーで沸かす風呂に交換し、その後母の希望で24時間風呂（電気ヒーターで常に40度）を設置、いまはこの24時間風呂（鉄製ホーロー塗装）とガス給湯器風呂（FRP素材）を使っています。	
生活の中の情報			
1	初めての電話との関わりはいつ、記憶に強くあることは？	「松本局762番」のプレートが軒先に打ちつけられていました。「呼び出し電話」がかかってくると近所へよく呼びに走った。	
2	初めてのケータイはいつ、どのよなきっかけで？	1985年ごろ仕事用に。	
3	鉄道（乗り物）で印象深い記憶は？	学生時代の松本・新宿8時間。週末のデートに小倉-広島夜行列車。	
4	コンピューターに接した、あるいはそれを意識したのはいつ、どのようなことですか？	1960年3月、NCRIに入社してから。プログラミングはアッセンブリーやバイナリーコードで紙や磁気テープ上にプログラムし、業務に応じて読み込む外部記憶方式だった。私の最初のパソコンはNECのPC8001から始まったが、加藤教授の研究室のMacintosh Perfoma520の魅力にとりつかれて以来MAC-G4=iMac。	
5	どのような家電を導入したとき、家の中の様子が最も大きく変化しましたか？	テレビがはいった時は、近所中が集まって見ていたぐらいの記憶しかありません。本家の洗濯機が円筒形で、手回しの絞りローラーが付いていたことだけは覚えてます。	
6	社会の変化についてのコメントは、戦後の日本社会を総括するとどんな感じ？	社会に出た後の時代も「バイト」は学生のものだった。人が主役で余暇は十分にあった。職能による収入の差はあっても生活環境に差は感じなかった。80年代の行政改革、90年代の規制緩和、成果主義導入で競争が激化し、人と仕事の地位が逆転しはじめ人の使い捨て、格差を産み企業優先に切りかわってきた。2000年代の民営化で既存企業との戦いがさらに激しくなった。優しい社会が「強存強栄」社会になってしまったが、ウィルスの体験が「自分だけ」、「あとは野となれ」などの投げやりなニヒリズムが社会化することを懸念します。	
その他			
1	戦後、＜日本＞を意識されたことがあれば、どのような時ですか？	●1945年 無条件降伏の敗戦から原爆投下まで ●2011年 福島原発事故 ●2020年 リニア中央新幹線	
2	小学生の頃何をして遊んでいましたか？	手ベース、缶蹴り、メンコ、釘刺し、竹馬、竹とんぼ、水鉄砲、川で水泳 下駄スケート	